

福祉器具のジェー・シー・アイ

富谷に新本社拠点集約

福祉器具製造・販売のジェー・シー・アイ(仙台市宮城野区)は、本社と宮城県大和町の本部・工場を統合し、富谷市成田地区に新たな本社を建設する。製造工場と介護用品レンタル事業拠点を集約して機能強化を図るとともに、ショールームも整備。2022年夏に着工し、23年7月の使用開始を目指す。

新本社にはオーダーメイド品の開発に生かすなどしてドの車いすや介護用品の製造工場と物流センター、介護用品レンタル事業所、器具のメンテナンス施設を配置。敷地面積は約1万平方メートルで、契約済みの土地の取得費なども含め事業費は12億〜13億円の見込み。

一般の人が触れる機会の少ない福祉用具のショールームや、セミナーが開催できるスペースも設ける。客のニーズを聞き取り、新製

ル事業を展開し、県外にも5支店を持つ。約3000の医療福祉法人のほかレンタル関連の個人客を抱え、21年6月期の売上高は56億2000万円。

老朽化した拠点施設の更新に加え、点在する物流倉庫を統合しようと新型コロナウイルスの感染拡大前から用地を探していた。大信田社長は「総合生活支援企業として、関連する事業は何でも取り組む。将来的には売上高100億円を目指したい」と力を込める。

新本社建設に当たり、七十七銀行と子会社の七十七キャピタル(仙台市)が出資する「七十七キャピタル

製造工場、展示場設置へ

第2号ファンド」が20日、ジェー・シー・アイに投資者は「フーマライゼーションに取り組む企業の発展に貢献できれば」と話す。



ジェー・シー・アイの本部機能と工場などがある大和町の拠点